2025 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	生物生産学部・生物生産学科・１年

（１）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

このプログラムに参加した当初の目的は、時間のある大学生のうちにしかできない貴重な海外体験をしたいという思いからでした。そこから、目標はただ海外に行くのみではなく、世代を越えて海外の人たちとたくさん英語でコミュニケーションをとり、英語力はもちろん、コミュニケーション能力の向上としていました。

現地では自由時間が多かったこともあり、現地のエ学生や先生に積極的に話し掛けに行ったのですが、改善点が多く見つかりました。相手から、急に話や質問を振られた際になかなか、即座に答えを返せない点が自分の弱い点だと感じました。それは主に二つに要因があると思い、一つ目は単純な英語力、もう一つは自分の意見や考えをどんなトピックに対しても持っているかということです。自分の考えをはっきり持っていないから、考えを持って英語を考えるというステップを踏むことによって、多くの時間がかかっていることに気が付いた。

今後は毎日の学習の中で、五分程度でもいいから、英語を話す時間を設けることと、たくさんの人とコミュニケーションをとって自分の知見を深めて、さまざまな事柄に興味を持って即座に自分の考えを表現できるようになりたいと思いました。

（２）プログラム内容についての全体的な感想

プログラム全体としては満足度が高かったです。まず何といってもやはり海外の学生と交流する時間が多く設けられていたのがとてもよかったです。プログラムとして強制的にコミュニケーションをとる時間があったのはもちろん、完全にフリーな時間で、自分から積極的に声をかけに行く時間があったのもとてもよかったです。また、リトアニアの歴史や生活感を深く味わえる施設や街並みを見学できたし、ガイドの方の説明もそれに沿っていて、とてもよかったです。ただ、ガイドの方の話す時間が非常に長く、集中力が切れてしまうことがほとんどだったので、個別での質問の時間が多いと嬉しいと思いました。

施設は特にカウナスのホテルが個人的にはとても満足度が高かったです。二人部屋のわりに部屋がとても広く、朝食のメニューも充実しており、防音も聞いていてとてもよかったです。二つ目のホテルは音漏れがかなりひどかったので、その点だけ気になりましたが、ほかはよかったです。現地での生活は、基本的にどの日程にも自由時間が多かったので、前日の終わりのタイミングや、朝礼の時間をもう少し長くして、綿密に説明をしていただければ、予定もより立てやすくなると感じました。

（３）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

START プログラムは二週間弱の日程で、また、同じ広島大学の学生とグループでの

渡航ということもあり、ひとりで行くのに比べると、緊張感が少ないですが、外国人学生と一対一で会話をすると自分の英語力の低さを実感するので、渡航前に特にアウトプットを中心として英語の勉強をしっかりと行って準備してから渡航することをおすすめします。また、事前の準備物としては、ホテルの中ではくようなサンダル等を持っていくとホテル内の移動が非常に楽になって便利だと思います。また、乾燥がひどいと一気に体調を崩すので、マスクがあるとよいと思います。事前学習は具体的にテーマを決めすぎないほうがいいと思います。実際に現地に行って、実物を見てみて、考えや、より深く探求する題材を、最初からこれだけに決めておいて、現地に行った後にピントがずれていることに気が付くこともあるので、テーマを最初からはあまり気にせず、現地でしかできない体験や、興味をもった有名なお宝や有名な観光地に行ってみたり、多様評価が悪くても、登録が高くても、その土地特有のものをその場で追い求める日々の中で、全力で楽しむことを強くおすすめします。

所属学部・学科・学年	法学部・法学科・1 年

（1）START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

(1) 隣国にロシアやドイツといった大国があり、歴史的にも地政学的にも戦争や侵略の危険に晒されてきたリトアニアがどのように自国の独立や文化・アイデンティティを守り、現代へ繋げてきたのかを学びたいと思い参加した。
(2) 至るところにリトアニアとウクライナの国旗が掲げられていたり、多くの学生が自分の政治的スタンスについて議論していたりと、日本よりも政治が日常に密接なもの、当たり前に考えるべきこととして存在していると感じた。また占領されてきた被害の歴史だけでなく、加害に加担する側となってしまったホロコーストの歴史もあることを忘れないよう、博物館など特に教育・文化の面で多く努力がなされていた。
(3) 危険や対立を避ける、忌まわしい記憶は思い出したくない、といった思考や行動は人間にとって当然であると思うが、そうせずに向き合い続けた（けている）からこそ、今もリトアニアに歴史や昔からの宗教施設が残っているのだと感じた。2 年次以降は特に国際法や多国間協力について学びたいと考えているため、命や建物だけでなく、伝統の退廃や教育の遅れといった戦争がもたらす長期的な影響についてより知見を深め、その被害を防ぎ、戦争から守るためにはどうすればいいのか、どのような国際協力が必要なのか、リトアニアの歴史や努力を参考に自分なりに考え、探求していきたい。

（2）プログラム内容についての全体的な感想

講義を通して歴史や伝統文化、日本との関係など、幅広く多様な視点からリトアニアを学ぶことができ、現地学生との交流や街を自由に散策する機会も多くあったので、短期間だが学術的にも“リトアニア”に深く向き合えたプログラムだったと思う。特にカ

フェや教会、大学施設など本来は一般人が入れない所でも教授が説明してくださったので、観光向けでないリアルなリトアニアを垣間見ることができ、大変興味深かった。

また視察は杉原千畝ハウスや第 9 要塞、KBG 博物館といった特に近代のリトアニアに焦点を当てたものだったので、戦争や平和に関心があった私にとってはとても意義深い留学になった。当時の様子が生々しく再現されている箇所もあり、つらいと感じる展示もあったが、それを含めて大きく衝撃を受け、自分の平和や価値観を改めて見つめ直す機会になったと思う。

フリータイムでは大型ショッピングセンターに行ったり、リトアニアの大学の学食を体験したりすることができた。街にはゴミ箱が等間隔に設置され、道がとても綺麗であること、雪道でも滑りにくく、ファットバイクが広く普及していること等、実際に街を歩いてみて気づくことや面白い発見が多かった。ただ、プログラム中は基本徒歩で移動するので天候が悪い日は大変だった。

（3）今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

講義では“大公国”や“農奴制”、地名や偉人の固有名詞といったリトアニアの歴史に関する、普段聞き慣れない英語が頻繁に使われるので、内容をしっかり理解するためには事前に専門書などを読んでおくと良い。また、渡航前に英語版 Wikipedia のリトアニア関連ページに目を通しておくこともおすすめする。

ご飯はとても美味しい。普通のスーパーでも本格的なパンが買える上、現地向けのお店はそこまで多くないので、日本食を大量に持ってくる必要はないと思う。心配ならインスタント味噌汁を持参すると良い（シェア用の箸や紙コップも便利）。

氷点下を下回ることが普通で、教会や遺跡など歴史的建造物には暖房設備がない所も多いので、防寒対策はしっかり行う必要がある。服装は、着脱しやすいものを選び、重ね着を基本とすると体温調節がしやすくて便利だ。